

診療体制は、一般外科から消化器外科、大腸肛門外科、乳腺外科、胸部外科など良性疾患から悪性疾患まで広範囲に行っております。良性疾患では、気胸、各種ヘルニア(脱腸)、症疾患(有石胆嚢炎・胆管炎、膵炎、憩室炎、胃腸炎、出血性・穿孔性潰瘍など)、イレウス(腸閉塞)、巨大結腸症による慢性難治性便秘、出血性痔核・脱肛・直腸脱、下肢静脈瘤など、良性疾患に対しても、QOL 改善目的手術は、外科的手術適応を十分に検討し、患様の立場に立った治療方針を選択します。特に、大腸肛門外科においては、痔核、脱肛、直腸脱、痔瘻などデリケート部位で、恥ずかしくて相談出来ない疾患でも、丁寧に説明し、苗足の行く治療を行っています。「痔核の手術は、悩んでいるものの、痛くて手術はしたくない」と多くの方が思っておられると思いますが、当院の手術は、「痛みが少ない」PPH 治療を採用しております。

PPH 治療とは、ヨーロッパで生まれた直腸粘膜脱・内痔核に対する治療法で、2005 年 11 月に厚生労働省より「先進医療」として承認され、2008 年 4 月より保険適応となりました。

\* PPI-I 法(Procedure for Prolapse and Haemorrhoids) (経肛門的粘膜切除術)：自動環状縫合器(Circular Stapler)を用いて、下部直腸粘膜を環状に切除する事により、肛門粘膜を吊りあげ、内痔核を直腸に戻す手術法です。



▲PPH 法のプロセス



利点：①粘膜は痛みを感じないため、術後に痛みがほとんどありません。

②手術時間は、15 分と短時間で済みます(麻酔は、腰椎麻酔と静脈麻酔で行います)

③痔核そのものを切除しないが粘膜の切断と同時に静脈叢上部の動脈の血流も断つため、しばらくすると消えてなくなります

④痔核が肛門から出る原因となる粘膜のたるみを取ることで、再発もしにくい方法です

⑤手術後疼痛・出血・狭窄などの合併症が少なく、早期退院・早期社会復帰が可能になります(術後 3 泊 4 日入院を基本としております)

⑥肛門皮膚に、傷が出来ないため、術後の見た目もきれいです。

**注意点:** PPH 法は、全ての痔の症状に対して有効ではありませんので、症状に応じて、適切な治療方法を選択します。悪性疾患に対する治療方針は、基本的には、各臓器別癌取り扱い規約に沿った治療ガイドラインに従って行っておりますが、患者様の全身状態、生活環境、精神状態などを考慮し、術前に時間をかけてでも手術適応を検討し、患者様の精神的不安が少しでも軽減出来るように、十分に説明、話し合い(インフォームドコンセント)を行い、納得のいく回答を出します。リンパ節郭清を含めた手術方法の説明と選択、術前・術後の補助療法の説明、化学・分子標的治療薬の選択などを行います。安全な術中・術後管理を行う為の術前カンファランスは、内科、麻酔科、外科、外科スタッフの合同カンファランスとして行っており、術中・術後合併症が無いように努力しております。退院後も、再発・転移の定期検査、術後補助化学療法、術後生活の相談などを外来にて行っておりますので、安心して受診して頂ければ幸いです。